

篠田 咲子 さん
SINODA SAKIKO

アウトドアガイド 扇町



アウトドアスポーツ通じ、富良野を盛り上げたい

「不安はなかったです。富良野に住むのが楽しみです。た」と笑顔で話す篠田咲子さんは長野県白馬村出身。現在、美瑛出身のご主人とアウトドア会社「ガイドラインアウトドアクラブ」を運営しており、篠田さんもラフティングなど実際に現場に出てガイドを行っています。

篠田さんはガイド歴10年以上のベテランガイド。地元長野の短大を卒業してすぐに地元のアウトドア会社に就職しました。篠田さんは、「自分が楽しんでい myself が楽しくないと相手も楽しんでくれませんから、あとは自分の世界にどう引

き込むかだと思えます。常に変化するフィールドは飽きないですよ」とガイドの魅力を語ります。富良野に移り住んだのは3年前。その1年前に同じアウトドア会社で働いていたご主人と結婚、それを機に独立しようと、自分たちにあった地域を探し始めま

す。そして、新たなスタートを切る場所として選んだのが富良野でした。篠田さんは、「自分たちの納得のいく川」を探していました。候補はいくつかありましたが、ガイドづてに富良野への誘いがあったのと、また、主人の良く知る富良野に決めました」と移住した当時を振り返ります。篠田さんにとっては、初めての富良野生活でしたが、「ちよ



北の峰さくら子ども会のクリスマスパーティーで牛乳パック灯ろうのつくり方を指導する篠田さん

富良野に来てから昨年までの2年間は、市で行っていた新たな観光資源を開発・発掘する仕事に携わっていました。「この仕事でいろいろな人とのつながりができたし、富良野の魅力を知ることができま

した」と篠田さん。当時、企画・運営を行った山道を走る「富良野トレイルラン」は、現在、ご主人が実行委員長、篠田さんが事務局を担い、事業を継続。富良野のアウトドアスポーツを盛り上げています。また、子ども会の行事などに

banana club

子育てママっ子。ばななくらぶ



▲美瑛を拠点に活動する講師の武田ミカさんから指導を受ける参加者。子育てママを中心に50人が参加。

大人気！子育てママの自主企画。ヨガで心も体も元気に



11月28日、文化会館で「リラックスマヨガ初心者講座」が行われ、遮光された会場に癒しのメロディが流れ、主婦や子育てママら50人が「大きく吸って……リラックス……」のかけ声に合わせてヨガを体験しました。

主催は、仲良し子育てママグループ「子育てママっ子・ばななくらぶ（齋藤美和代表）」。「この講座は、教育委員会主催の市民が自ら企画・実践する「自主企画講座」の一つ。2カ月間に渡り5回行われた講座は、子育てママも気軽に参加ができるように託児を設け、定員を大きく上回る盛況ぶりでした。美瑛を拠点に活動する講師の武田ミカさんは「ママが元気になる」と家族が元気になる。まず自分が元気になるってほしい」と話します。1歳の子どもを連れて参加した齋藤代表は「人の助けがないと子育てはとも大変です。子育てでママたちの心と体を元気にしよう」と、市が行っている『ひよこサロン』などで知り合った『ママ友』5人で企画しました」と自らの経験から、今回の

講座を企画。また、「みんな結婚・出産以前までバリバリ仕事をしていた人たちなので動きも早いし、チームワークも抜群ですよ」と楽しみながら活動をしています。託児は、齋藤代表が子

育て講座で知り合った年配の女性ボランティアが行っており、ボランティアの一人は、「孫やひ孫のようにママたちの手助けになれば」と世代を超えて関わり合います。

反響の大きかったこの自主企画講座を足掛かりに1月からは、自立してヨガサークルとして活動するそうです。齋藤代表は、「まずは、このエネルギーを感じてほしい」と話していました。

higashiyamachiiki fukushikatsudou renrakukai 東山地域福祉活動連絡会

東山の福祉活動担い17年「いつまでも住んでもらいたい」



▲自分たちで栽培したそばで、そば打ちを実演するJ.A.ふらの青年部東山支部のメンバー▼昼食会の様子

バーが打ったそばを楽しみました。サロンは、お年寄りの顔合わせの場として、11月から3月までの冬期間、月に一度開催される、さまざまな企画でお年寄りを楽しませています。今回参加した小向礼子さんは、「おいしかったあ。若い人たちの顔も見れていいね」と満足した様子。主催の東山地域福祉活動連絡会（天内繁会長）は、平成7年に東山地域連絡協議会や当時の社会福祉協議会東山支部、東山区農業協同組合、東山民生児童委員会の4つの組織が連携し、地域福祉を支えることを目的に誕生しました。活動は、除雪へ

ルバーや屋根雪下ろし、デイサービスボランティア、平成14年よりサロン活動を行っています。企画・調整を担当する事務局長の菅野真さんは、「発足して17年が経ち、会の活動が地域のみならずさまに理解されるようになり、連携体制も徐々にできてき

ました」とこれまでを振り返り、しみじみと語ります。天内会長は「高齢者が増え、運営は厳しくなりますが、若い人たちの協力ももらいながら、いつまでも東山に住んでもらえるよう活動を継続していきたい」と話していました。



左上から

富樫 煌さん(7歳)
楠本 真生さん(7歳)
楠本 芽生さん(5歳)

わんぱくざかり

丸山 颯太さん(4カ月)
南町

カメラ目線！写真撮影が大好きです！



元気いっぱい！
みんな仲よし♪

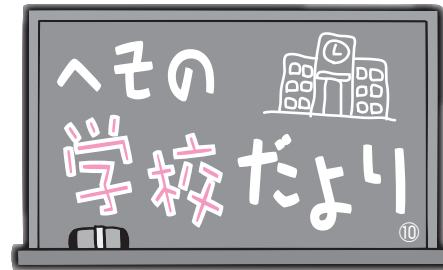
左下から

富樫 しおんさん(5歳)
細川 百花さん(4歳)

錦町

お子さんの写真を募集しています！

応募は、①住所②氏名③電話番号④お子さんの名前(ふりがな)と年齢⑤簡単なコメントを添えて、持参・郵送・メールのいずれかの方法で「広報ふるの」までお寄せください。(メールアドレス kikaku-ka@city.furano.hokkaido.jp)



富良野小学校

北海道の「へそ」に位置し、中心標を校庭に有する富良野小学校(宮下敏校長)。現在546人の児童が通う、市内最大の小学校です。今年、開校110周年の節目の年にあたり、また、3月に完成を予定している体育館改築と合わせ、記念協賛会(山内喜一郎会長)が設立され、学校へ楽器や自然学習の教材としての「学校ビオトープ(生態系の観察を目的に学校敷地内に作る小さな自然環境)」を寄贈する予定です。

道など10ほどのメニューから選択して、それぞれ体験し、学習しています。また、環境学習はNPO法人富良野自然塾から学び、農業体験は、緑峰高校園芸科学科の生徒や農家の方々に教わっています。さらに、保護者や地域の方が学校支援ボランティアとして、本の読み聞かせ



豊かに関わり合って成長 長年積み重ねた学社融合の取り組み

富良野小学校は、「豊かにかわり合って自分をみがく子」を教育目標に掲げ、多くの人との関わり合いを持たせる取り組みを行っています。日本文化や伝統を学ぶ授業では、市内から講師を呼び、琴や尺八、生け花、茶道、日本舞踊のほか、柔道や剣



やスキー授業支援などを行っており、本の読み聞かせは、年間135回、延べ450人、スキー授業は年間24回、延べ1200人のボランティアが関わっています。この学校支援ボランティアの取り組みに対し、11月7日、文部科学省から「優れた地域による学校支援活動」の文部科学大臣表彰を受賞しました。宮下校長は、「今回の賞は、こうして応援をいただいている保護者や地域、関係者の方々への賞学校として、非常にありがたい」

と感謝しています。このほか、「スマイル班活動」と呼ばれる全校児童を36班に分けた「縦割り班」(それぞれの班に全年齢の児童が入るよう分けた班)により、あいさつ運動や清掃活動などを行っています。あいさつ運動は当番制で、該当班は1階ホールで登校する友だちに大きな声であいさつし、さわやかに一日をスタートしています。宮下校長は、「日々変わる情勢の中で、保護者や地域の方々など多くの人との関わり合いの中で、『人間関係を構築する力』、『責任をもって物事を成し遂げる力』、『自分の意見を主張できる力』を熱心な教職員とともに培ってきたいと思っています」と話しています。



我が子が教えてくれること
初めての育児に不安を感じながらも、毎日楽しく過ごしてきたこの数カ月。気が付けば我が子の重さも生まれわたときの2倍を超え、丸々とたくましくなってきました。まだまだ赤ちゃんですが、たくさんのことを私に教え、私の世界を広げてくれていきます。夕食を終えて一息ついたら、リビングの電気とテレビをオフ。親子3人、川の字になって読み聞かせを楽しんでいます。オーバーに声色を変えて読む夫の声に我が子は大興奮！手足をばたつかせ喜びます。こんなにはしゃいで眠れるの、という私の心配もよそに、めいっはいおっぱいを飲んでバタッと寝てしまっ我が子。その寝息に耳を澄ませると、虫の声や夜風が揺らす木の葉の音が聞こえてきます。夜がこんなに静かで、こんなに賑やかなのも我が子が教えてくれたことです。抱っこひもの背中の中

子育て・親育ち



ばしているお母さんを見かけて、思わず「ごめましようか?」。以前なら、余計なお世話かなと声をかけるのを迷ったでしょう。今は、その大変さが分かるから迷うことなく声をかけることができます。これも我が子のおかげ。

散歩では、「近所さんがたへくさん声をかけてくれます。子育ての頼もしい先輩や同級生の子をもつお母さんと、もたくさん知り合えます。なかなか広げられなかった「近所づきあい」を、あつという間に広げてくれた我が子に感謝!

これからも、どんどん新しい世界を教えてくれるだろう我が子。心配性のひよっこ母さんですが、ここはじっくり構えて、のんびり育児を楽しみたいと思っております。

幸町 ひよっこ母さん

子育てをとおして親も成長するものです。このコーナーでは、そんな子育て体験を紹介いたします。体験記を依頼者の「へお寄せください」(650字程度)



友好都市で力走「良い交流できました」

西脇子午線マラソン大会報告 12月13日 函

友好都市の兵庫県西脇市で12月11日に開催された「西脇子午線マラソン大会」に招待選手として出場した2人が、能登市長に結果報告をしました。本大会へは長年にわたり選手を派遣し、西脇市との交流を深めています。麓郷中教諭の小西雅人さんは10kmを47分30秒（84人中26位）、飲食店勤務の本間智さんは10kmを54分37秒（38人中18位）でそれぞれ完走。2人のホツとした表情が印象的でした。

2年連続2回目の全国大会出場！

全国小学生バドミントン大会出場報告 12月9日 函

富良野バドミントンジュニアクラブに所属の西尾奈純さん（扇山小5年）と七宮優羽さん（同4年）が、日本バドミントン協会主催の全国小学生バドミントン選手権大会（12月23日～27日釧路市）出場を決め、能登市長に報告しました。2人は「ベスト8に入れるようにがんばる」（西尾さん）、「一試合でも多く勝てるようにがんばる」（七宮さん）と、それぞれの目標を話してくれました。



クリスマスイベントあちらこちらで

英語のクリスマスおはなし会&北の峰さくら子ども会クリスマスパーティー 12月17日 函



ALTによる英語の仕掛け絵本の読み聞かせに見入る子どもたち



北の峰さくら子ども会クリスマスパーティー

クリスマスにちなんだ仕掛け絵本や動物絵本の読み聞かせを楽しみました。同日、開催された北の峰さくら子ども会のクリスマスパーティーには、延べ100人ほどの地域の子もたちが、牛乳パック灯ろうづくりや、カレー、クリスマスケーキなどの食事を楽しみました。牛乳パック灯ろうづくりには、プロのアウトドアガイドが講師となり、また、青少年ボランティア「ね〜びる」がお手伝いに参加。子どもたちは、思い思いの灯ろうを製作し、パーティーを楽しんでいました。

町内子ども会や児童館など市内各所でクリスマスイベントが行われました。

12月17日に図書館で行われた英語のクリスマスおはなし会には、40人ほどの親子連れが参加し、ALT（外国語指導助手）や館長によるク



子どものアイデア、中心街の活性化に

第5回富良野市子ども未来づくりフォーラム 11月29日 函

小中学生が総合学習の実践発表や、「少年の主張」、富良野の未来への提言を発表する富良野市子ども未来づくりフォーラムが文化会館で開催され、市内10校約300人の小中学生が参加しました。

未来への提言では、山部小学校5、6年生の5つ



のグループが中心市街地の再開発事業をテーマに提言を発表。小学生ならではの自由な発想と校内で実施したアンケート調査によりそれぞれ提言をまとめました。

提言の中には、富良野の特産品であるたまねぎやメロンなどのお風呂を備えたスーパー銭湯や、図書室やパソコン室を有する、季節や天候問わず楽しめる全天候型ドーム公園などを提案しました。

「未来への提言」はこれまでも、まちづくりに活かされており、今回の提言も今後のまちづくりの参考となります。

日台野球で国際交流

日台親善国際交流U-15軟式野球大会 12月14日 函

台湾で行われた日台親善国際交流U-15（15歳以下）軟式野球大会に北海道選抜として参加した選手（石塚和希さん・長谷川海斗さん・紙谷拓さん【東中】、小早川星也さん【山部中】）と同チームの監督を務めた富良野西中学校の事務職員明石昌人さんが大会の感想を市長に報告しました。5勝1敗の好成績を残した北海道選抜。小早川さんは、「心を一つにして戦い、最後はみんなで涙を流すことができた」と大会を振り返っていました。



社会に責任ある経営が認められ

(株)北菱が道社会貢献賞受賞報告 12月2日 函

北海道社会貢献賞（建設雇用改善優良事業所）の知事表彰を(株)北菱が受賞し、能登市長に報告をしました。上川南部では初の受賞。資格取得費用を会社が負担し、全従業員に資格取得を奨励、取得者には給与面で優遇していることなどが評価されました。上田勉会長は「積み重ねてきた取り組みを認めていただき光栄です。今後も建築土木などを通して、地域社会に貢献していきたい」と喜びを語りました。

